

# 平成24年度 全国学力・学習状況調査の結果について

下松市教育委員会

## 1 調査結果の公表にあたって

平成24年度全国学力・学習状況調査(平成24年4月17日実施)の結果についてお知らせします。

本調査は、小学校6年生と中学校3年生を対象とし、国語、算数・数学、あわせて本年度は理科の学力の状況や児童生徒の生活習慣、学習環境等の状況を調査するものです。一昨年度と同様、本年度についても抽出調査として実施されましたが、本市では、児童生徒の学力や学習状況等を把握・分析し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善に役立てるため、抽出校はもとより、抽出対象とならなかった学校においても、希望利用方式により文部科学省から調査問題の提供を受け、市内全小・中学校で調査を実施しました。

これまでの各小・中学校の取組により、本市の児童生徒の学力は着実に向上していますが、「基礎・基本の確実な定着」や「活用する力の育成」、「学習意欲の向上」については、引き続き重要な課題です。本市では今後も、学校と家庭・地域が連携・協働し、一体となった取組を推進していきます。



## 2 教科に関する調査結果について

### (1) 全体の結果(下松市立全小・中学校)

#### ★ 小学校

- 国語Bの平均正答率は全国平均とほぼ等しい値であったが、国語Aの平均正答率は全国平均を上回っている。
- 算数Aと算数Bの平均正答率は、いずれも全国平均を上回っている。
- 本年度初めて実施された理科の平均正答率は、全国平均を上回っている。

#### ★ 中学校

- 国語Aと国語Bの平均正答率は、いずれも全国平均を上回っている。
- 数学Aと数学Bの平均正答率は、いずれも全国平均を大きく上回っている。
- 本年度初めて実施された理科の平均正答率は、全国平均を大きく上回っている。
- 国語A・Bと数学A・Bの平均正答率を総合すると、平成21年度小学校6年生時点での国語と算数の調査結果と比較し、著しく向上している。

※ A問題は、主として「知識」に関する問題で、基礎的・基本的な知識・技能を習得しているかを問う問題です。  
B問題は、主として「活用」に関する問題で、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用できるかを問う問題です。  
理科は、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う問題です。

[参考資料] 全国と山口県の平均正答率(%)

区分	全 国		山 口 県	
	平均正答率(推計値)	平均正答率の95%信頼区間	平均正答率(推計値)	平均正答率の95%信頼区間
国語A	81.6	81.4~81.7	82.3	81.7~82.9
国語B	55.6	55.4~55.8	56.3	55.3~57.4
算数A	73.3	73.1~73.5	73.5	72.6~74.4
算数B	58.9	58.7~59.1	58.0	57.0~59.1
理科	60.9	60.8~61.1	61.2	60.3~62.2

区分	全 国		山 口 県	
	平均正答率(推計値)	平均正答率の95%信頼区間	平均正答率(推計値)	平均正答率の95%信頼区間
国語A	75.1	75.0~75.2	75.2	74.7~75.8
国語B	63.3	63.2~63.4	64.1	63.4~64.8
数学A	62.1	62.0~62.3	63.6	62.8~64.4
数学B	49.3	49.2~49.5	50.9	49.8~51.9
理科	51.0	50.9~51.1	52.6	51.9~53.3

※ 抽出調査であるため、文部科学省は、全国及び都道府県の平均正答率について、全員を対象とした調査(悉皆調査)を行った場合の平均正答率が95%の確率で含まれる範囲(平均正答率の95%信頼区間)で表示するとともに、その中央値を平均正答率の推計値として公表しています。

## (2) 各教科ごとの結果

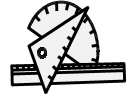
◎：相当数の児童生徒ができている点 ▲：課題のある点

### 小学校 国語

- ◎ 漢字を正しく書くこと、正しく読むこと。
- ◎ 百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を取り出して書くこと。
- ▲ 目的や意図に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書くこと。
- ▲ 資料を読み取った上で、質問をしたい内容を明確にして発表するように記述すること。

### 小学校 算数

- ◎ 整数や分数の計算をすること。
- ◎ 代金の支払い方の工夫を解釈し、おつりの硬貨の種類と枚数を考察すること。
- ▲ 小数の減法で、小数点をそろえて位ごとに計算すること。
- ▲ 必要な情報を取り出して判断した理由を記述すること。



### 小学校 理科

- ◎ 受粉や方位磁針など自然事象に関する言葉や名称を、正しく理解すること。
- ◎ 学習した植物の規則性を、他の対象においても適用すること。
- ▲ 天気の様子と気温の変化の関係についてデータを基に分析し、その理由を記述すること。
- ▲ 方位磁針の適切な操作方法について、正しく理解すること。

### 中学校 国語

- ◎ 手紙を書く際の形式を理解し、相手に応じて文章を書き直すこと。
- ◎ 文脈に即して漢字を正しく読むこと。
- ▲ 相手の発言を注意して聞き、自分の考えを与えられた条件で書くこと。
- ▲ 物語において、場面の展開を捉えたり、言動の意味を捉えて自分の考えを書くこと。



### 中学校 数学

- ◎ 正の数と負の数の減法や、簡単な連立二元一次方程式を解くこと。
- ◎ 三角錐の展開図や回転体の構成について理解していること。
- ▲ 計算結果を事象に即して解釈し、事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明すること。
- ▲ 数量の関係の特徴を的確に捉え、数学的に表現すること。

### 中学校 理科

- ◎ 地層観察に関する技能について理解していること。
- ◎ 実験を考察する場面で、電力の知識を活用して省エネ効果を考えること。
- ▲ 抵抗に関する知識を活用し、他の方法を検討・改善することで正しい実験方法を説明すること。
- ▲ 電力量について正しく理解すること。

## 3 生活習慣や学習環境等に関する結果について



### (1) 望ましい状況

※(1)、(2)とも小・中学校に共通する事柄

- ◎ 近所の人に会ったときは、あいさつをすること。
- ◎ 学校の規則を守っていると回答した児童生徒の割合が高いこと。
- ◎ いじめは、どんな理由があってもいけないと思うこと。人の役に立ちたいと思うこと。
- ◎ 解答を文章や言葉・式を使って答える問題で、最後まで解答を書こうと努力した児童生徒の割合が高いこと。

### (2) 課題とみられる状況

- ▲ 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)学習する時間が短いこと。
- ▲ 家で自ら計画を立てて勉強する児童生徒の割合が低いこと。
- ▲ 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う児童生徒の割合が高いこと。
- ▲ 「活用」を問う問題(国語B、算数B・数学B、理科)の解答時間が足りないと思う児童生徒の割合が高いこと。

## 4 今後の取組について

### ★ 学 校

- 組織的取組の強化(研修を中核とした学校改革、学力向上プランの改善、チームによる機動的・組織的な取組の強化等)
- 教員の授業力の向上(積極的な授業公開、校内研修・授業研究の活性化等)
- 学習内容の充実と指導方法の工夫  
(自分の考えをまとめ伝え合う学習の充実、一人ひとりに応じたきめ細かな指導の充実、評価問題の工夫、やまぐち学習支援プログラムの活用等)

### ★ 家庭・地域

- 学習・生活習慣の改善(「家庭学習の手引き」の活用、家庭生活の見直し等)



### ★ 下松市教育委員会

- 各学校の取組の検証
- 学力分析と情報提供
- 継続的な学校訪問・指導
- ワークショップ型授業研究等による校内研修充実への指導
- 下松市教育研究所員による研究授業の公開